



Title	特別支援学級のための音楽鑑賞教材研究 ～実演奏による鑑賞授業(2)～
Author(s)	宮下, 茂
Citation	教育実践総合センター紀要, 8, pp.159-166; 2009
Issue Date	2009-03-20
URL	http://hdl.handle.net/10069/25932
Right	

This document is downloaded at: 2019-09-23T09:41:19Z

特別支援学級のための音楽鑑賞教材研究Ⅱ

～実演奏による鑑賞授業（２）～

宮下 茂（長崎大学教育学部）

I はじめに

筆者は、平成19年2月23日に長崎大学教育学部附属養護学校（現特別支援学校）で開催された公開研究発表会に於ける中学部指導助言者の任を得た。それを切っ掛けとして、特別支援学校での音楽授業の内容に興味を抱いたと同時に、演奏家としても同様の興味を抱いた。そして筆者の指導活動や演奏活動を特別支援学校の生徒に役立てることや、どのようにすれば役立てることができるか等を考えるようになった。その後、約1年間にわたり特別支援学校並びに盲学校に於いて授業観察を行い、音楽授業に於ける指導目標として筆者の考えを明らかとした。

（註1）

そのような中、平成19年度文化庁芸術家派遣事業派遣講師の任を得て、同年6月6日から3日に亘り長崎県立盲学校幼少部に於いて音楽授業を行う機会を得た。

1回あたり60分の授業では、歌唱指導と鑑賞授業を半々に行った。

本論分は、筆者の行った実演による鑑賞授業の試行内容を考察し、児童並びに生徒の持つ様々な能力を伸ばす内容の音楽鑑賞プログラムの研究を行うものである。

鑑賞授業の試行では、鑑賞授業全体の総合的テーマに「歌と音楽のおもしろさ」を打ちたて、各回のテーマを以下に設定した。

- ・ 第1回テーマ「歌のおもしろさ（季節の歌～どんな季節？何を思い出す？）」
- ・ 第2回テーマ「音のおもしろさ（音の描写～どんな音？何の音？）」
- ・ 第3回テーマ「歌のおもしろさ（世界の歌）」

第1回、第2回の鑑賞授業内容は既に「特別支援学級のための音楽鑑賞教材研究Ⅱ～実演奏による鑑賞授業（1）～」(註2)に記している。

本論分では、第3回鑑賞授業内容と鑑賞授業全体の総括を行う。

Ⅱ 長崎県立盲学校幼少部での実演による鑑賞授業

● 第3回鑑賞授業の実施

第3回目の鑑賞授業では、テーマに「歌のおもしろさ（世界の歌）」を設定し、平成19年6月20日（水）11：30～12：30の派遣授業の中で実施した。

15分刻みの鑑賞授業を2セット行い、それぞれのテーマを①「世界の歌～世界の民謡と愛唱歌」 ②「世界の歌～ハバネラのリズムで巡る世界の旅」とした。

その中で鑑賞曲に関するコメントと演奏を交互に行った。

前回までの鑑賞授業に於いて、第1回では児童にとって身近な季節をテーマとした唱歌を中心に鑑賞を行い、第2回では想像を伴う集中力を必要としたテーマで鑑賞を行ってきた。第2回までの授業に於ける児童の様子を観察した結果、ほとんどの児童が鑑賞内容に興味を持ち、集中を切らさずに聴くことができることが分かった。その為、今回の授業では2セット目の前半に、複数の曲に共通する「ハバネラ」のリズムを感じとる内容を加え、リズムと国別の2つのテーマによる、世界の愛唱歌の鑑賞を試みた。

曲目、選択曲のテーマ、コメント内容等、具体的な内容は【表1】【表2】を参照されたい。

【表1】鑑賞指導内容1「世界の歌～世界の民謡と愛唱歌」

(コメント時間+演奏時間=合計15分)

曲順	選択曲のテーマ	コメント内容(台本)	曲目
1	(導入) 好きな歌… 今、歌い歌	<ul style="list-style-type: none"> 好きな歌はありますか？ 今日、先生が最初に歌いたい歌は、元気にテンションをあげて歌える歌です。 	闘牛士の歌 (ビゼー作曲、歌劇「カルメン」より) (第1節のみ演奏)
2	みんなで歌える歌～愛唱歌	<ul style="list-style-type: none"> 今、先生が歌いたい歌を歌いました。でも、一人で歌う歌よりも、みんなで歌える歌は、もっと楽しくなります。 子どもから、おじいちゃん、おばあちゃんまで、誰とでも歌える歌、そんな歌のことを「愛唱歌」といいます。 今日は、そんな「愛唱歌」を集めてみました。 	ふるさと(高野辰之作詞、岡野貞一作曲)(第1節のみ演奏)
3	韓国版「ふるさと」	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの日本人が知っている愛唱歌「ふるさと」。 世界にも、そんな愛唱歌があります。 お隣韓国の愛唱歌、韓国版「ふるさと」といえる、「故郷の春」を聞きましょう。 	故郷の春(後藤田純生訳詞、洪蘭坡作曲、山田真孝編曲)(第1節のみ演奏)

4	中国の愛唱歌～ 民謡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 続いては、同じアジアの大国、中国の愛唱歌。 ・ 舟遊びの楽しさを歌って、世界に知られる歌「太湖船（タイ・フー・チョワン）」です。 	太湖船（中国民謡、菊村紀彦作詞、松山祐士編曲）（第1節のみ演奏）
5	世界の民謡へ～ イギリスの民謡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今歌った中国の愛唱歌…これは、中国の民謡でもあります。 ・ 世界には、様々な民謡があります。 ・ 欧米の民謡には、どこかで聞いたことがある歌や、初めてでも、聞きやすい歌がたくさんあります。 ・ 続いては、ヨーロッパの民謡を聴きましょう。 ・ まずはイギリス、イングランド地方の民謡から「グリーンスリーブス」です。 	グリーンスリーブス（イギリス、イングランド地方の民謡、門馬直衛訳詞） （第1節のみ演奏）
6	世界の民謡へ～ アイルランドの民謡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 続いては、イギリスのそばに位置する、アイルランドの民謡。 ・ ケルト音楽などで知られる、アイルランドは、古くから伝統を大切にする国で、ヨーロッパの人にとっては、中世の時代を呼び起こす、懐かしさを持つ音楽があります。 	庭の千草（アイルランド民謡、堀内敬三訳詞）（第1節のみ演奏）
7	世界の民謡へ～ ドイツの民謡	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドイツの民謡は明るく、楽しく、ほがらかです。 ・ 別れの歌でも、明るく歌われます。 ・ みんなで楽しく歌えそうなドイツ民謡「別れ」です。 	別れ（ドイツ民謡、門馬直衛訳詞）（第1節のみ演奏）
8	ドイツの民謡～ シューベルトの歌も民謡に…	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピアノの音から風の音が聞こえていた、シューベルトの「菩提樹」。 ・ ドイツの民謡では演奏の難しい風の音が省略されて、みんなで歌える歌になりました。 	菩提樹（ドイツ民謡／シューベルト作曲、門馬直衛訳詞）（第1節のみ演奏）

9	北の大地の寒そ うな民謡	<ul style="list-style-type: none"> ・ 最後は、寒い風土の厳しい生活を歌うロシアの民謡。 ・ 北の大地の大国ロシアに 17 世紀頃生まれたロシア民謡「ヴォルガの舟歌」です。 	ヴォルガの舟歌（ロシア民謡、門馬直衛訳詞）（第 1 節のみ演奏）
---	-----------------	---	----------------------------------

【表 2】鑑賞指導内容 2 「世界の歌～ハバネラのリズムで巡る世界の旅」

（コメント時間＋演奏時間＝合計 15 分）

曲順	選択曲のテーマ	コメント内容（台本）	曲目
1		<ul style="list-style-type: none"> ・ まずはピアノソロで、この曲を聞きましょう。 	ハバネラ（ビゼー作曲歌劇「カルメン」から）（第 1 節のみ演奏）（ピアノソロ）
2	世界はせまい？ ～ハバネラのリズムでめぐる世界の旅	<ul style="list-style-type: none"> ・ フランス人のビゼー作曲の歌劇「カルメン」から 踊りのリズムが特徴的な「ハバネラ」でした。 ・ ビゼーがスペイン民謡だと思っていたこの曲、実はスペイン人のイラディエルの作った歌でした。 ・ 彼はスペインからアメリカへ演奏旅行して、キューバのハバナで「ハバナ風の踊り」の曲を知りました。その後、フランスへ移ってビゼーの「ハバネラ」が生まれました。 ・ 続いてはイラディエルの作った歌（スペイン民謡）、「ラ・パロマ」を聴きましょう。 	ラ・パロマ（スペイン民謡／イラディエル作曲、津川圭一訳詞）（第 1 節のみ演奏）

3		<ul style="list-style-type: none"> ・ イタリアの有名なナポリ民謡「オー・ソレ・ミオ」。 ・ ディ・カプア作曲が作曲し、1899年にナポリ地方のお祭りで、第2位入賞した歌です。 ・ この曲でも「ハバネラ」のリズムが聴こえます。 	<p>オー・ソレ・ミオ（ナポリ民謡／ディ・カプア作曲、徳永政太郎訳詞）（第1節のみ演奏）</p>
4		<ul style="list-style-type: none"> ・ キューバに始まった、「ハバネラ」のリズムを聞きながら、辿り着いたイタリア。そのイタリアにはナポリ民謡、カンツォーネ、オペラのアリア等、愛唱歌がたくさんあります。 ・ ナポリ民謡から「サンタ・ルチア」です。 	<p>サンタ・ルチア（ナポリ民謡、堀内敬三訳詞）（第1節のみ演奏）</p>
5	愛唱歌の宝庫～イタリアの歌	<ul style="list-style-type: none"> ・ 続いて、昔の商業ソング「フニクリ・フニクラ」です。 	<p>フニクリ・フニクラ（ダンツァ作曲、津川圭一訳詞）（第1節のみ演奏）</p>
6		<ul style="list-style-type: none"> ・ 最後は、オペラのアリアですが、愛唱歌としても知られる「女心の歌」です。 	<p>心の歌（歌劇「リゴレット」より、ヴェルディ作曲、堀内敬三訳詞）（第1節のみ演奏）</p>
7	原語で聴く、イタリアの歌	<ul style="list-style-type: none"> ・ イタリアのカルディッロが、1908年に名歌手カルーソーのために作った歌「カタリ（つれない心）」。 ・ 歌の魅力は、やはりその国の言葉の中にあります。 ・ 最後はイタリア語で聴きましょう。 	<p>カタリ（つれない心）（カルディッロ作曲、原語歌唱）</p>

Ⅲ まとめ

以上が全3回に亘る鑑賞授業の授業内容である。

鑑賞授業では、授業前に行った授業観察の考察内容を受け、授業の時間配分を児童の慣れている15分の活動に分け、60分の授業に対し歌唱と鑑賞の2つの内容を15分の活動4セットに分けて、歌唱と鑑賞を交互に行ってきた。(各回共通)

授業への取り掛かりとして、児童によく知られた季節の歌による鑑賞の授業を始めた(第1回授業)

盲学校の児童は客観性に優れ、音に対するすばやい反応ができ、周りの音を聞き取る能力に優れているとの考えから、児童の持つ能力を確かめる目的で、音楽の中から聴こえる自然描写の聞き取りを試みた。(第2回授業)

また、児童の発言内容に年齢よりも大人びた発言が聞かれ、子供らしさに囚われない鑑賞プログラムも可能であると考えられた。そのことから、世界の愛唱歌による懐かしさ等<歌の心>の聞き取りを試みたほか、共通するリズムの聞き取りを試みた。(第3回授業)

各回の鑑賞授業では欠席等の為、幼児1名、第1学年から第6学年までの児童7~8名、合計8~9名が鑑賞した。

全盲者、弱視者のほか肢体不自由等があるため感想等やアンケートの記入は、時間を必要とした。そのため、幼児並びに児童へのアンケートは行わず、授業の中で鑑賞の様子を観察し、直接質問をその場で行い、授業後に児童によって書かれた感想文と合わせて鑑賞教材の成果内容を考察した。また、音楽授業担当の6名の教諭による感想文書(事業報告書)から、鑑賞授業に関わる部分を抜き出し、合わせて考察を行った。

教員並びに児童の感想内容は【表3】を参照されたい。

教員の感想から、鑑賞授業各回とも好評を得ていたが、特に音楽を聴くのみではなく、話を挟みながら効果音と音楽を交互に聴いた第2回の授業に興味と関心を与えたことが伺える。(表3-A)

また、児童の感想でも、第2回の鑑賞授業に於ける「木の葉を揺らす風の音」として紹介したシューベルトの「菩提樹」や、日本語歌詞の理解に頼らず、ドイツ語での歌唱とピアノの音から情景を感じ取る鑑賞として紹介した、レーヴェの「詩人のトム」が好評であった。(表3-B-①)

同様に「詩人のトム」で鑑賞した、効果音CDの具体的な自然音も好評であった。(表3-B-③)

授業の中でも、「菩提樹」の鑑賞途中で「聞こえた!」と、思わず声を上げる児童がおり、自分の想像とピアノの音が結び付いたと感じたことへの感激が表れた様子が観察された。

その他の感想として、教員の感想の中に「力強い歌声に首をすぼめてしまう児童もいた。」という音量に関する注意点が見られた。(表3-A-④)

児童の感想に、「しゅう学りょこうで花火を見たとき、『ドーンとなった花火がきれいだな。』をおもい出しました。」(表 3-B-⑤)とあったが、その意見とは別に、鑑賞授業の中での注意点がいくつか考えられた。

一つは前述の音量に関する注意であり、例えば第 2 回授業で鑑賞したムソルグスキー「のみの歌」の中で、やはり「首をすぼめてしまう児童」の姿が見られた。急激な音量の変化の部分で、児童は驚いた様子であった。そのような楽曲を選択する場合、児童への配慮が必要であった。

また、前述の花火の感想を述べた児童の例であるが、その児童は急激な音量の変化の部分では平気な様子で熱心に聞き入っていたが、第 3 回授業で鑑賞したダンツァの「フニクリ・フニクラ」では眩暈を起こしてしまった。しかし、その児童は別室に移動させようとする教員の手を払いのけ、床に手足をついたまま最後まで曲を鑑賞し続けていた。その様子から、熱心に聞き入るあまり、この曲の持つ快活な速度とリズムに一種の酔いを感じたと考えられた。

以上の考察から、音量や速度・リズムについては、鑑賞者に合わせた選択が必要であるが、語りと自然音、歌とを組み合わせた鑑賞は、盲学校の児童にとって想像力を働かせることができ、興味と関心を寄せることができる活動になりうることが分かった。

筆者は、今回の研究内容を基に語りと自然音、歌とを組み合わせた鑑賞プログラムを再考し、続いて特別支援学校において実演による鑑賞授業の試行を行う計画である。

註

- (1) 論文題目「特別支援学級のための音楽鑑賞教材研究Ⅰ～音楽授業観察による指導目標の考察～」宮下茂、長崎大学教育学部附属教育実践総合センター紀要、2008. 3 第 7 号、91-96、2008 年 3 月 参照。
- (2) 論文題目「特別支援学級のための音楽鑑賞教材研究Ⅱ～実演奏による鑑賞授業(1)～」宮下茂、長崎大学教育学部教科教育学研究報告書、第 49 号、71-82、2009 年 3 月 参照。

【表 3】感想（鑑賞に関する部分）

A. 教員の感想（鑑賞に関する部分）

- ① 各回毎に季節、鑑賞（自然の音など）、世界の音楽と内容も盛りだくさんで、子どもたちの“あー知ってる”“あーわー”という驚きの声と表情が印象的だった。
- ② 四季のイメージを効果音とともに歌唱とピアノ演奏していただき、イメージの伝え方から子どもたちも想像力が育ったと思った。
- ③ 先生のはりのある歌声がとても魅力的だった。Nさん（弱視、肢体不自由）は全身で声を受け止めるような感じで、身体をしっかりと起こし聴き入り、歌声を楽しんでいた。お話される声も大好きだったようだ。
- ④ 力強い歌声に首をすぼめてしまう児童もいた。

B. 児童の感想（鑑賞に関する部分）

- ① きれいなえんそうをきかせていただいてありがとうございます。みやしたせんせいのこえわ やわらかいかんじがしました。きせつのうたがとてもすきでした。ピアノがとてもじょーずだったです。シューベルトのきょくがとてもすきでした。ドイツでうまれたひとがつくったうたもすきでした。また、うたをひいてください。（3年男子・全盲・点字文）
- ② きれいなうたをうたってくださいありがとうございます。ぜんぶのうたがきれいでした。（3年男子・強度弱視）
- ③ ぼくがいちばんやさしくてなめらかなうたは、はるがきたといううたです。ぼくがおもったのは、みやしたせんせいのこえがきれいだなとおもいました。ぼくがいちばんおもしろかったのは、すずのおとがまざったCDをきいたのがおもしろかったです。（4年男子・全盲・点字文）
- ④ すずのおとをきいたのがおもしろかったです。せんせいのうたをきいてたのしかったです。こんどあったらたのしいおはなしをしましょうね。（4年女子・全盲・点字文）
- ⑤ しゅう学りょこうで花火を見たとき、「ドーンとなった花火がきれいだな。」をおもい出しました。（6年女子・弱視）
- ⑥ うた、だいすき ありがとう（6年女子・弱視・肢体不自由）